海事プレス KAIJI PRESS ONLINE

造船・舶用

2022年3月4日

# 常石造船、ＬＰＧ船を初受注
# 常石工場で４隻建造、タンクは三井Ｅ＆Ｓと協業

建造するＬＰＧ船のイメージ

常石造船は３日、同社初の建造となるＬＰＧ運搬船を国内船主から受注したと発表した。5000立方㍍型ＬＰＧ船４隻で、常石工場で建造する。常石工場ではバルカーを建造しながら、海外造船所と製品メニューが重複しない小型船や内航船の建造比率を高めていく方針を打ち出しており、今回のＬＰＧ船受注もその一環になる。貨物タンクの設計・建造では資本提携している三井Ｅ＆Ｓ造船と協業し、貨物タンクも自社で製造する。

受注したＬＰＧ船は標準加圧式で、１番船が2023年に竣工予定。5000立方㍍級ＬＰＧ船の汎用的な主寸法を踏襲しつつ、推進抵抗を低減する船体形状や最新主機の搭載により、エネルギー効率設計指標（ＥＥＤＩ）フェーズ３をクリア。選択式触媒還元脱硝装置（ＳＣＲ）を搭載し、ＮＯｘ（窒素酸化物）３次規制に対応するなど、推進・環境性能に優れた最新鋭のＬＰＧ船になる。

常石造船は常石本社工場、常石集団＜舟山＞造船、ツネイシ・ヘビー・インダストリーズ・セブの３工場で新造船を建造する体制をとっており、中小型バルカーやコンテナ船などを建造している。日本国内の常石工場では、海外造船所と製品が重複しない小型船や内航船として同社では従来手掛けていなかったＬＰＧ船やＲＯＲＯ船などの船種を建造し、コスト競争力のあ

る海外２工場の外航船建造体制と、小型船や環境対応船を主体とした国内建造を棲み分ける方針を首脳インタビューや会見などで打ち出していた。ＬＰＧ船のほかには、天然ガス専焼エンジンとバッテリーを組み合わせた日本初のハイブリッド推進システムを搭載する内航石灰石運搬船と、水素燃料タグボートの建造プロジェクトが決定している。

ＬＰＧ船の建造で重要な要素となる貨物タンクや関連システムの設計・建造では、ガス船やガス関連技術で豊富な実績を持つ三井Ｅ＆Ｓ造船と協業している。両社の知見を合わせることで経済性と環境負荷軽減の両立を実現する。

三井Ｅ＆Ｓ造船はＬＮＧ船やＬＰＧ船の豊富な建造実績で培った知見や技術に加えて、ガスエンジニアリング会社ＴＧＥマリンを通じたガスハンドリングのノウハウを持つ。5000立方㍍型ＬＰＧ船の貨物タンクを他の造船所向けに設計・エンジニアリング・製造した実績もある。

日本国内の造船所では、１万立方㍍以下のＬＰＧ船を小型の外航船などを建造する複数の造船所が手掛けているが、ＬＰＧタンクは国内のタンク製造メーカーからの調達となっている。ＬＰＧタンクを製造するメーカーは少なく、タンクの製造がボトルネックとなることもあった。常石造船は貨物タンクを内製化して製造することで、ガス関連技術のノウハウや知見の蓄積も図る。

【ＬＰＧ船主要目】全長約99m、ＢＤｄ＝17.6m×８m×6.1m、貨物タンク容量5000立方㍍、4800総トン

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.
No reproduction or republication without written permission.